

施設整備について

I 立地について

データ&イノベーション学群は、県の産業振興計画の実現に深く関与できる教育研究機関であり、企業のデジタル化や、高校の情報教育への支援を目的とするものである。

また、社会人へのデータサイエンス教育を通じた Society5.0 関連企業群の創出等、高知県産業への良い影響を与えるものとなる。こうした教育研究を行うためには、企業、行政、教育現場等との連携は不可欠であり、その最適な設立場所として永国寺キャンパスをその候補と考えている。

近年、新型コロナウイルス感染症の影響により、授業などでもオンライン化が進んでいるが、企業や高校生と新学群の学生や教員がフェイス to フェイスで連携して取り組むことに大きな意味があると考える。

II 新棟に必要な機能とその規模について

データ&イノベーション学群は、開設時には入学定員 60 名を予定しており、この教育の実現のために、15 名程度の教員を充当する予定（文科省大学設置基準では最低教員数は 14 名）。

また、新学群での教育は生きたデータを使用しながら PBL 型（Project Based Learning = 問題解決型学習）の教育を行うこととしており、そのための教室や、企業との連携、打合せを行うスペース等も充実させたい。

① 産学・高大連携ラボ

企業と教員、高校生と新学群の学生の交流スペース（受付、会議室、フリースペース、スタジオ（オンライン授業用）など）

② PBL 教室（Project Based Learning = 問題解決型学習）

実際の社会（企業）の課題を題材にデータを用いてグループで取り組むオープンなフロア

③ 研究室（3・4年生用 各 70 名程度×2フロア）

フリーアドレスで利用することができ、研究室同士の境界（壁）は設けない。他の研究室の学生や教員などとの交流も生まれ、教育研究効果が高まる。

④ 教員室（1フロア）

約 20 m²の部屋×20 室程度 その他、学群長室、事務室、ミーティングルームなど

⑤ その他 サーバ室、給湯室、トイレ、エレベーター など

III 大学が想定している規模・建設費用 6 階建て・約 25 億円

（永国寺キャンパスを想定して最大のものを建設した場合）

必要な施設の規模と財源（収支見通し）については、検討会での議論を踏まえ、整備費用にランニングコストも加味しながら今後検討していく。